

畜産バイオマスの高効率エネルギー利用、炭化・灰化利用による環境調和型畜産振興特区 [指定：平成23年12月、認定：平成24年6月]

正  
準

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(1.7 + 2.5) / 2 = 2.1$

D

i) 取組の進捗 (下記より該当するものを選択)

目標値に対する実績に基づく進捗度 (当年度実績)

進捗	番号	評価指標	進捗度
A(5点)	1	低温ガス化装置の実用化(家畜排せつ物のエネルギー利用量)	定性評価
B(4点)	2	超省エネルギー炭化・灰化装置の実用化(鶏糞の炭化物・灰化物利用量)	E
C(3点)			
D(2点)			
E(1点)			

代替指標に基づく進捗度 (当年度実績)

進捗	番号	評価指標	進捗度
A(5点)			
B(4点)			
C(3点)			
D(2点)			
E(1点)			

当初目標に対する取組の定性的な事業進捗 (専門家評点)

進捗	番号	評価指標	専門家評価
A(5点)	1	低温ガス化装置の実用化(家畜排せつ物のエネルギー利用量)	C
B(4点)			
C(3点)			
D(2点)			
E(1点)			

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 0 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 2 = 2.0$

①... 2.0

■ 地方公共団体による特記事項

国の予算執行抑制措置による財政支援実施時期の変更(平成24年度に予定していた実証実験については、国の財政支援が決定していたものの、交付決定が遅れ、完了予定が25年6月となった。)

■ 専門家考慮事項(妥当性) 目標設定の考え方、数値目標の根拠又は計画の進行管理の方法等、各事業の連携効果

(専門家所見(主なもの))

- ・「低温ガス化装置の実用化(家畜排せつ物のエネルギー利用量)」について、平成24年度までは実証試験器の構築に向けた準備を行っており、予定どおり進んでいるとのことだが、順調に進んでいるとする根拠が不明。
- ・実証実験の毎年の目標及びロードマップを示されたい。

考慮事項から、目標設定の考え方等が特に優れている:+1、妥当である:±0、改善の余地がある:-1とし、加点又は減点する ②... -0.3

i) の評価 ①+②

1.7

※目標値に対する実績値及び代替目標値に係る評価の例

- ・本特区の目標値(代替指標を含む)に対する各評価指標の評価を合計し、平均値を算出することにより評価とする。(評価指標1の評価D、2の評価D、3の評価D、4の評価Cの場合、 $(2+2+2+3) / 4 = 2.25$  四捨五入で「2.3」とする。)
- ・「当初目標に対する取組の定性的な事業進捗(専門家評点)」の評価については、数値目標の達成に向けた取組の状況について定性的に評価する。
- ・各評価指標に複数の数値目標がある場合、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均したものとする。(例)評価指標1について、a、b、cという3つの数値指標があり、各数値指標の進捗度および寄与度がa:C20%、b:C10%、c:D70%の場合、 $3 \times 0.2 + 3 \times 0.1 + 2 \times 0.7 = 2.3$  四捨五入で「2」であるため、評価指標1の評価は「D」となる。

正：平成24年3月末までに計画が認定された地区／準：平成24年3月末時点では計画が認定されていない地区

ii) 今後の取組の方向性

方向性	番号	評価指標	専門家評価
A(5点)	1	低温ガス化装置の実用化(家畜排せつ物のエネルギー利用量)	C
B(4点)	2	超省エネルギー炭化・灰化装置の実用化(鶏糞の炭化物・灰化物利用量)	D
C(3点)			
D(2点)			
E(1点)			

(専門家所見(主なもの))

- ・それぞれの実証実験から何を得るのか、ロードマップがわかりにくい。
- ・実証実験ではどうしても予定しない事象が発生するので、本事業に関する見通しを、実験だけでなくエネルギー価格やその後の技術情報などを基に常に見直す体制が必要ではないか。

ii) の評価

評価指標毎の評価の平均値

$$(5 \times 0 + 4 \times 0 + 3 \times 1 + 2 \times 1 + 1 \times 0) / 2 = 2.5$$

2.5

## II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況(A~E)

i) + ii) の平均値  $(3.5+4.0)/2=3.8$

**B**

i)-① 規制の特例措置を活用した事業等の評価 該当なし	-
i)-② 財政・税制・金融支援の活用実績の評価 (専門家所見(主なもの)) ・超省エネルギー炭化・灰化装置実証試験事業の実施に、総合特区推進調整費を活用している。 ・金融支援については、実証実験終了後の普及段階でないと評価しがたい。	3.5
i)-① + i)-② の平均値(注)	3.5

ii) 地域独自の取組の状況の評価 (専門家所見(主なもの)) ・家畜排せつ物臭気対策補助金、ぐんま新技術・新製品開発推進補助金、環境・エネルギー推進事業費補助金など、普及等のための補助金制度は準備されている。 ・個別の技術開発等の補助事業を行っている。	4.0
--	-----

## III 現地調査時の指摘事項及び対応状況

(専門家所見(主なもの)) ・実証実験をもとに、ガス化発電の採算見通しをどのように得たのか不明。 ・実証実験以外にも、FITなど関連制度が年々変わるので、それに対応して事業の見直しを見直すことが必要。
--

## IV 総合評価(I~III) $(2.1+3.8)/2-0.25=2.7$

「I + IIの平均値」に「III及び地方公共団体による総合評価の状況(評価書7)」を加味して算出

(専門家所見(主なもの)) ・現状で「低温ガス化装置」と「炭化・灰化装置」の実証実験だけの事業になっており、それ以外の取組(例:FITなど関連制度が年々変わることに対応した事業の見直しを見直す等)も必要ではないか。 ・進捗管理について具体的な事項による定性評価の検討(例:順調に進んでいるとする根拠等)が必要ではないか。 ・ガス化事業と炭化・灰化事業との連携により得られる、本地域での畜産バイオマスに対する具体的な効果の記述が求められる。 このため、I及びIIの平均値(2.95)に上記所見を加味(-0.25)し、総合評価結果をC(2.7)とする。	<b>C</b>
--	----------

(注) i)-①、i)-②のいずれかに該当がない場合は「—」とし、他の項目の点数をi)の点数とする。